

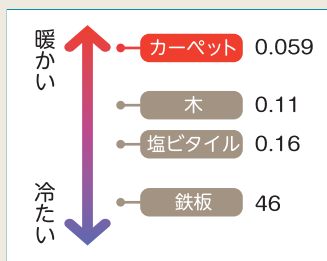
## 新訂「カーペットはすばらしい」差替

本誌15頁、図3「床材別サーモグラフィー」において、誤りがありましたので、下記のように修正させて頂きます。ご迷惑をおかけいたしました。  
(2022.10.1：日本カーペット工業組合)

### 空気層が肌にやさしく、冷たさが伝わりにくい

#### ■ 温冷感覚

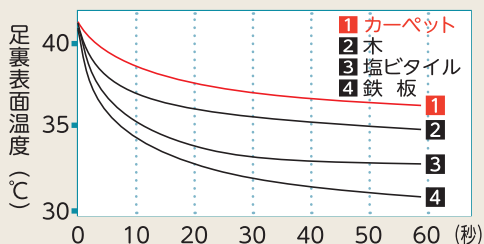
[図1]



数字は熱伝導率(kcal/mh°C)

#### ■ 床の表面に足裏を接触させたときの足裏温度変化

[図2]



木2や塩ビタイル3に比べカーペット1は、温度低下幅が小さい。

空気を多く含むカーペットは熱伝導率が小さいため [図1]、足裏の温度低下の幅が小さく [図2]、肌で感じる“接触温冷感”も暖かく感じます [図3]。繊維内に隠された空気層が断熱材として働き、熱を逃がしにくくしているのです。

#### ■ 床材別サーモグラフィー (接触温冷感)

手のひらを床材に30秒間接触し、手を離れた直後の手のひら温度を計測します。(赤が温度が高く、青が低い)

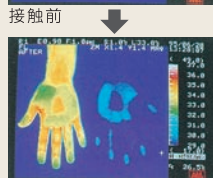
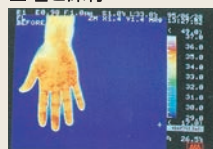
接触前は両者とも同程度の手のひら温度でしたが、接触後は塩ビ床材の方が熱を奪われ、カーペットより大きく温度低下しています。

東り情報誌「マイント VOL.9」より

#### ■ カーペット



#### ■ 塩ビ床材



### こんな部屋におすすめ

家の中でも比較的温度の低い廊下や洗面室、トイレなど。また寝室のベッドサイドや乳幼児と過ごすことの多いリビングなどにおすすめです。

